

# ひだご坊真宗教化センターだより 2021年2月号

発行日:2021(令和3)年1月28日 第7号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ [takayama@higashihonganji.or.jp](mailto:takayama@higashihonganji.or.jp)

## 真宗仏事の真髓、見つけたり しかし、..

知人ではない方の葬式に参る時は、どのような心持ちでお参りしたらよろしいのですか？

この問いに、間髪を入れずに応じた堂衆

いかなる仏事であっても、真宗においては「仏恩報謝の御仏事」でございます。

中央声明講習での一幕

2017年、高山で開催された真宗教学大会において、私は列座であるということもあったからか、儀式班の担当を任されました。高山教区・別院の御遠忌を迎えるにあたり、改めて「報恩講とは何か？」ということをつのパート(教学・儀式・伝承)からアプローチし、教研の仲間と学びを進めました。限られた時間のなかで資料を細くなくぞりながら「報恩講」の起源を調べ、次第に仏事の興りへと学びは深まっていきました。無数の文献を通すなかで、私たちの行う仏事の目的を、善導大師は『法事讃』のなかで示されていることを知りました。

要点だけをあげますと、仏事には「善知識に

遇う」・「改悔懺悔」の二点が願われます。つまり「友(善知識)をとおして法が伝承され、その法に頭が下がった(改悔懺悔)」という体験が報恩という謝念を生み出すことになるということです。そして、最終的にはこのように結論づけをしました。

真宗において報恩講とは、宗祖のご命日に因んで勤められる限定された法事を言うのではなく、いかなる仏事であっても、必ず報恩講の形をとる。

というものです。そしてそれは、「聞法」をはずしてしまつたら報恩の仏事として成立しません。

しかし、私たちは今コロナの第三波の真只中にあり、真宗の仏事の要である「善知識に遇う」というスタート地点にさえ立たせることを許さない状況がつづいています。そして、それはいつまでもつづいていくような、どんよりした雰囲気の世界中を包んでいます。

宗祖の門弟のひとり覚信房は、関東から遠く離れた、京都におみえの宗祖にお訪ねする途中、病を患ったといひます。仲間は村へ引き返すように説得をしましたが、覚信房は「どうせ死ぬ

のなら宗祖のもとで」と言って堅固な気持ちを奮い立たせて出奔したという逸話が伝えられています。二河警の「三定死」を連想させるような勇ましい姿に、宗祖はおおいに喜んだことだろうと思います。ただ、覚信房がコロナ感染者だとしたら一転、この話は悲劇に変わります。それで、「報恩講に必ず参るのが真宗門徒の勤め」という言葉にも配慮が必要になりそうです。

これまで「報恩講」に参ることのみが、門徒の信心をはかるバロメーターのように機能し、また参拝人数で住職・総代の力量をみる基準ともなっていました。しかし、いかなる名目の仏事であっても、それは「報恩講の形をとる」のが真宗です。ひとつひとつの仏事が「報恩講」となるような聞法の場を開きつづけ、同時にそれが「悲劇」へと変わらないように感染対策に心がけることが必要です。残るは「法は人をとおしてしか伝わらない」という自信教人信の問題です。

これはコロナからの挑戦状です。

高山別院列座  
吉城組 西念寺 三島見らん



## ★お知らせ★

### コロナ感染症 緊急事態宣言に伴う 教務支所・別院の勤務体制について(お願い)

コロナ感染症に伴う教務支所の出勤体制について、2月5日まで職員出勤人数を1日2~3人、勤務時間を9時から16時といたします。

また、別院については、従来通りの出勤体制を基本といたしますが、可能な範囲で出勤人数を調整しながら業務にあたります。

つきましては、事情ご賢察のうえ、2月5日までは、極力来院を控え、可能なものは、電話・郵送等によりご対応くださいますようお願い申し上げます。

なお、2月5日以降につきましても、感染状況によりこの度の体制が延期となる可能性もございますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

### 高山別院御堂番 休止期間延期のおしらせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、令和3年3月1日(月)までの御堂番を休止いたします。

### コロナ感染対策の「三密」で見えてきた「同朋会運動」

— 少人数の「同朋の会」と「寺報」の発行 —

コロナ感染の流行により緊急事態宣言が出され、昨年来続く「自粛」は、紆余曲折しながら今後の日常生活の常識となってくると考えられます。専門家の意見によれば、コロナ収束は2022年4月という予測もあれば、4~5年続くという見解もあります。いずれにせよ、この間に「三密」の意識は、普段の生活の常識になるでしょう。

そこで寺院の教化活動はどうあるべきか。「三密」に最も適した教化を考えると、かねてから推進されてきた「同朋会運動」の具体的教化としての「同朋の会」であると確信いたしました。

- ① 密集…同朋の会の参加者は、密集にならないよう、大人数ではなく、むしろ少人数であることの良さも尊重。
- ② 密接…本堂など、お寺の広い部屋を使用。
- ③ 密閉…換気の良い部屋で、空気の入替えを励行して、ダラダラと長くならないように実施。

「同朋の会」結成による教化が、三密という外的要因によって再確認され、実はより大切で、より適切な教化活動であることが浮き彫りとなったと考えます。春・秋の彼岸が「同朋の会」と言って「同朋の会」を結成してこなかった寺院は、改めて同朋の会の結成を考えてほしいと思います。

また、各寺院発行「寺報」は、門徒の居間へ出前する教化であります。寺報や「ひだご坊」紙を見るご門徒は、寺院や飛騨御坊、そして仏法とのつながりをおのずと感ずります。

この二つの教化が、真宗寺院がこの時代を乗り越えていく力となると確信します。  
三島センター長

■差別法名と差別戒名②

大谷派において明確な差別法名は一つしか発見されていないが(「大谷派における差別事項をめぐって一寺格・差別法名など」)、しかしその差別法名こそは、7歳の女の児につけられた「釋尼栴陀」であった。「釈」に対する不信どころか仏法に対する侮辱であり、故人に対する人間差別と人間軽視の最たるものである。「是旃陀羅」問題は、「差別法名」をつけた思想問題と密接な関係があると考え、宗門や教区の施策に「差別法名の背景にある親鸞思想の理解とは何か」を求めたい。

授式する者、法名を付ける立場の者が、帰敬式が真宗教化の厳粛な実践の場であることを見失わないよう運動を展開することは、御坊センターの重大な使命である。その歩みの一つとしての「是旃陀羅」問題の学習会でもある。上からではなく、教化の現場で問題確認がなされ提起していく。これが健全な同朋会運動の質である。「是旃陀羅」問題は、日頃法名を付けている現場より考える方が実際的である。

■院号・見真額

宗議会議員をしている時、「院号」は差別ではないかと大議論があった。院号の発生や歴史にも種々の説がある。日露戦争の時は、大将級の門徒戦死者に院号が与えられ、第二次世界大戦では、戦死

の門徒には全員に院号がつけられた。天皇制に宗門が呑み込まれ、戦争推進に加担した証明としての「院号」も見えてくる。

浄土真宗では、蓮如が院号を名告った。なぜ? その真意と院号利用の歴史を学ぶ必要を感じる。この問題は末代まで尾を引く。

また、「見真」額を御影堂から取り外す問題もあった。こういった問題についても、しっかりと学習しておく必要があるのではないかと。

■「釈」を含め必ず三文字の法名

法名と戒名の相違について確かめておきたい。多分、法名も戒名も一緒のものだと考えられている方は少なくないのではないかと。もしくは、その違いが今一つ理解されていないのではないかとと思われる。

戒名の性格として、存命中の実績が反映されることが多い。また、際立つのが最後につけられる居士や信士などの「位号」である。ここに身分や家柄、お寺や宗門に対する財的な貢献度などが表現されてきた歴史がある。戒名料によって、文字数の多少が出てくるという話もある。

また戒名には位牌が備わってくる。もともと仏教由来ではない(中国の儒教と言われている)位牌には、社会的な位(序列)を表示するものとしての機能・要素がある。天牌(尊牌)を頂点とした序列

を表現するものだという竹中智秀先生の指摘もある。差別戒名・法名を考えていく上でも、このあたりの問題を避けて通ることはできないだろう。

気を付けなければいけないのは、法名は先に述べたように一味平等の名告りであるから、存命中の社会的地位を彷彿とするようなものは避けるべきである。そして、女性の場合「尼」を付けるという伝統はあるが、「釈」の字を含めて必ず三字と決まっている。二字であっても四字であってもいけない。文字数にも意味がある。

■法名も戒名も存命中に授かるもの…だが

戒名とは、戒律を守ることを誓った聖道門仏教の帰依者(受戒出家者)に授けられるもの。当然、それとともに帰依三宝も求められるので、仏道に帰するということにおいては、法名も戒名も違いはない。どちらも、死後に授けられるものではないし、位や序列も無いことは明白。

しかし、戒名の場合、在家者が戒律を保つということは誰にでもできるものではないため、結局、死後に葬儀において引導とともに戒名を授ける「没後作僧」が一般化していったと考えていい。近年、授戒式のような行事に参加して、存命中に戒名を授けるということもあるようだが、極めて少数で、戒名は死後に葬儀で授けられるもの、ということが今日の社会通念となっている。

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年2月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	月			
2	火	13:30	教 教区教化委員会・慶讃法要推進委員会	教務所・教務支所
3	水	13:00	別 三日のご坊 法話:窪田 純氏(圓徳寺住職)	本堂
4	木			
5	金	7:00	別 半日華	
6	土			
7	日			
8	月			
9	火	14:00	セ 伝道部会	研修室
10	水	16:00	セ 第5回企画会議 (組二組門徒会報恩講・追平会(中止))	研修室
11	木	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番	御坊会館
12	金		組 二組婦人聞法会(延期)	
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	日			
15	月	13:30	教 聖教学習会(講師:マイケル・コンウェイ氏)	研修室
16	火	13:00	教 坊守会高山支部研修会	研修室
17	水	13:30	教セ 組長・組門徒会長センター懇談会	庫裡ホール
18	木	19:00	教 高山地区 教化研究所	研修室
19	金		若者教化代表者協議会(web)	
20	土			
21	日			
22	月	13:30 19:00	セ 真宗公開講座 3回目 講師:朝戸巨統氏 組 二組親鸞教室③	ご坊会館 ご坊会館
23	火			
24	水	13:30	セ 広報PT	1階ミーティングルーム
25	木			
26	金	7:00	別 半日華	
27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人ご命日 法話:樋口 博之氏(常照寺住職)	本堂

3月

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
3	水	13:00	別 嘉念坊善俊上人祥月御命日	15	月	14:00	セ 真宗公開講座(講師:和田英昭氏)
9	火	14:00	組 児連研修会(web)	17~23		13:00	別 彼岸会
9	火	19:00	組 二組親鸞教室④	23	火	19:00	組 高山二組親鸞教室⑤
11	木	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番	25	木	19:00	教 教化研究所
11	木	13:30	教 坊守会高山支部研修会	27	土	13:00	別 親鸞聖人お逮夜
12	金	13:30	教 聖教学習会(講師:藤元雅文氏)	28	日	13:00	別 親鸞聖人ご命日 法話:野崎尚齊氏
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	29	月	9:30	教 得度事前研修会(岐阜高山教務所)
14	日	11:00	別 納骨経				

テレビ番組 ごぼうチャンネル!

<YouTube 配信中>

チャンネル登録お願いします( ^\_- ) ☆

各ご家庭に真宗のメッセージをお届けしようと作られたのが「ごぼうチャンネル」です。

昨年10月と今年1月の放送分が視聴できます。



一口法話 web ひだご坊で配信中!

<https://hidagobo.jp/>

2月のお話

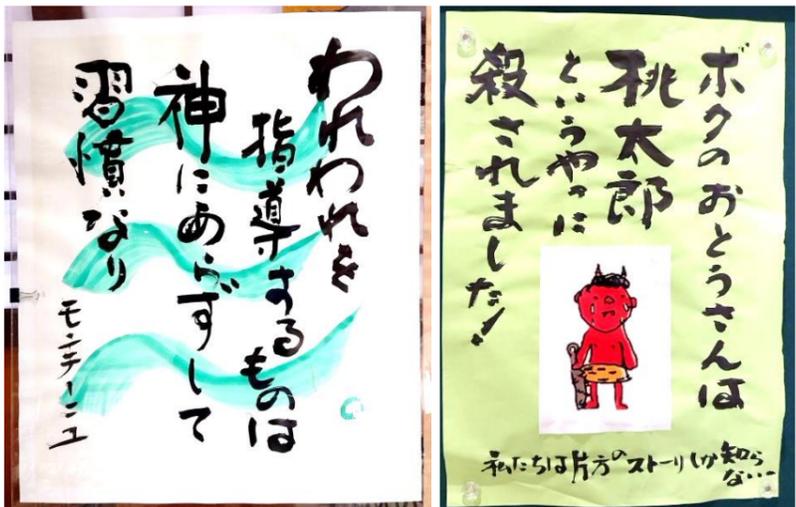
2月 1日~ 岩崎正親氏(朝高組 正覺寺住職)

2月 16日~ 高島一成氏(荘白川組 常德寺住職)

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

★ご坊 de 法語★

ご坊内に掲示されている法語の一部を紹介します。



Instagram 「hida.gobo」の開設

高山別院を多くの方に知ってもらえるよう、Instagram「hida.gobo」を開設しました。さまざま更新になりますが、別院のことを発信してまいります。フォロー・イイネ!、お待ちしております!

※右のQRコードからInstagramのページにアクセスできます。=>>

